

区長所信表明(項目)

- 1 はじめに
- 2 行政計画及び平成20年度予算案について
- 3 次世代育成について
- 4 健康・福祉施策について
- 5 環境施策について
- 6 文化・観光及び産業施策について
- 7 まちづくり施策について
- 8 行政経営推進プランについて



代表質問

第1回定例会では本会議において、区長・教育長に対し、2月16日に各会派の代表による代表質問が、2月18日には各会派から7名の議員による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

新タワー建設に伴う 東武浅草駅周辺再整備について



寺井 康芳 (台東区議会自由民主党)

子育て支援について

問 区長所信表明において、来年度から可能な限り小学校内にこどもクラブを設置することと、本区独自の放課後子ども広場を試行するとの発言があったが、①現在、校内で実施している学校は3校であり、学区域内にもない学校が6校ある。全小学校で実施するためにどのような計画を立てているのか、また、何年位の期間を想定しているのか。②放課後子ども広場の事業内容、運営方法、指導者等の詳細についてはどうか。

答 ①待機児童が生じている状況を解消するため、さらに、設置計画策定の検討を進めていきます。教育委員会と連携を図り、可能な限り小学校内にこどもクラブを設置していきます。②放課後子ども広場は、小学校の教室や校庭等を活用して子どもたちの居場所をつくり、専門職員をはじめ、安全管理員や地域のボランティア等を配置し、学び、遊び、体験、交流、生活等5つの場を提供します。台東区では、現在、学校で取り組んでいる事業を十分に活用しながら、台東区の特徴を活かした新たなモデル事業を実施していきます。

仮称谷中防災コミュニティセンター 建設について

問 谷中地区まちづくり事業や住宅市街地総合整備事業などを活用し、防災センターとコミュニティセンターの機能を併せ持つ、仮称谷中防災コミュニティセンターを建設すべきと考えるがどうか。また、当該施設建設に向けて調査費を計上すべきと考えるがどうか。**答** 「密集住宅市街地整備促進事業」の中で、防災広場の整備を実施するなど、安全・安心の基盤整備を図るとともに、防災訓練をはじめとする様々な自助・共助の取り組みを行っています。防災コミュニティセンターの建設については、防災広場などの既存の施設との関係を含め、「谷中地区まちづくり協議会」や、地域の皆様からのご意見を伺いながら、様々な観点から、そのあり方や調査経費について、検討を進めます。

問 ①新タワーが開業した際に、銀座線や、つくばエクスプレスなど、浅草駅に人々を迎える重要な輸送機関である、既存の交通機関をどのように活かしていくのか。②浅草と新タワーの回遊性を高めるため、ウェルカムボードを新タワーと東武浅草駅前に設置するとともに、東武浅草駅前の三角地帯広場の再整備を行ってはどうか。③浅草駅周辺の道路について、観光客が歩きやすいよう、拡幅整備を行ってはどうか。

答 ①「浅草地域まちづくり総合ビジョン」で、東武浅草駅及び周辺の交通機能の整備、既存の交通網の拡充、交通システムの新設を検討しています。現在、新タワーを見据えた交通需要調査を行っており、交通機能の整備等について、検討を進めていきます。②墨田区と連携して、ウェルカムボードの設置など、効果的な施策について、協議してまいります。東武浅草駅前の三角地帯については、国や東武鉄道をはじめ、関係機関と協議を進めます。③馬道通りと江戸通りの交差点付近については、今年度、歩道の一部を拡幅しました。馬道通りの歩道については、浅草地域まちづくりのプロジェクトの中で、地元のまちづくり協議会や交通管理者等と協議を進めます。

山形県村山市及び韓国ソウル特別市龍山区との 姉妹・友好都市締結について

問 ①山形県村山市とは観光物産展の開催や、少年野球チームの交流試合実施など、活発な民間交流が行われている。さらに結びつきを深くするため、努力していくべきと考えるがどうか。②韓国ソウル特別市龍山区とは、昭和63年に台東区議会日韓議員連盟を結成し、姉妹都市締結について熱心に語り合ってきた。両都市の観光交流を活発にし、観光客の増加に繋げるためにも、龍山区と姉妹都市締結をすべきと考えるがどうか。**答** ①村山市とも協議を行い、良好な関係をさらに強固なものとし、区民の皆様へのメリットが一層増えるよう努力します。②国際観光都市として、距離も近く、既に交流のある海外の都市と姉妹都市締結をすることは、有効な手段であると考えます。今後、観光交流をはじめ、区民主体の交流が実現できるよう、調査・研究を行います。

次世代育成について



青柳 雅之 (台東区議会区民クラブ)

18万都市台東区について

問 区長が掲げる18万都市は、外国人も含めた人口を踏まえると、目的達成も現実的なものとなりつつある。しかし、人口構成を見ると、区内においては単身世帯が多数を占めている。人口増加とともにファミリー世帯を増やしていくことが、本区にとっての大きな課題と考えるがどうか。**答** 地域の活力を維持し、高めていくには、定住人口の着実な増加と、年齢層や世帯構成などのバランスをとっていくことが重要です。高齢者の比率が高い本区においては、議員ご指摘のとおり、将来を担うファミリー世帯の定住を一層促進していくことが必要と考えます。

問 ファミリー世帯の増加を図るためには、総合的な施策展開を行うべきと考えるが、区長の所見を伺う。**答** マイホーム取得支援やファミリー世帯家賃支援、中学生までの医療費無料化、小児救急医療の充実など、子育て世帯に対する支援施策を積極的に展開してきました。さらに、ファミリー世帯向けの住環境づくりを目指すため、ワンルームマンションの規制の強化を図ります。「元気な18万都市台東区」の実現のため、今後も様々な工夫を凝らし、全力を挙げて施策展開に取り組んでいきます。

問 区長所信表明において、子どもの安全を確保するため、可能な限り小学校にこどもクラブを設置するとの発言があった。設置にあたっては、学区域にこどもクラブが無い地域を優先するとともに、子どもの移動などを考慮して、設置順を決定すべきである。小学校へのクラブ設置について、設置する区域の優先順位と、年度計画を含めた設置計画の全体像を区長に伺う。**答** これまでも必要な地域にこどもクラブを増設してきましたが、さらに、設置計画策定のため、どの地域に優先して設置していくかなどの検討を進めています。施設の状況により難しい学校もありますが、教育委員会と連携を図り、可能な限り小学校内にこどもクラブを設置していきます。**問** 放課後子ども広場はこどもクラブの学校内設置方針と重なっている部分が多く、全体が分かりにくい。放課後子ども広場とこどもクラブを連携する等、広い視点からの放課後対策が必要と考える。放課後子ども広場とこどもクラブの関係と、放課後子ども広場の全体像について、教育長に伺う。**答** 放課後子ども広場は、国から示された放課後子どもプランの考え方に基づいて実施する事業です。内容は、小学校の教室や校庭などを活用して子どもたちの居場所をつくり、専門職員や安全管理員、地域のボランティア等を配置し、学び、遊び、体験、交流、生活等5つの場を提供するものです。小学校内に設置されたこどもクラブと連携を図りながら、実施校のすべての児童が参加できるような放課後対策にしていきます。